

二七コ町学校評価委員会

評価報告書

平成26年度版

(平成27年3月30日作成)

～ 目次 ～

○	はじめに	P 1
1	平成26年度の委員会活動の状況	P 2
2	各学校・幼児センター共通の重点目標、評価の観点	P 3
3	各学校・幼児センターにおける評価結果	
	【No.1】共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進 (幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)	P 5
	【No.2】共通重点目標 特別支援教育の充実	P 7
	【No.3】共通重点目標 読書活動の推進	P 8
	【No.4】共通重点目標 防災教育・安全教育の推進、安全管理の徹底	P 10
	【No.5】共通重点目標 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化	P 11
	【No.6】共通重点目標 外部人材の積極的活用	P 13
	【No.7】共通重点目標 学校情報の積極的な発信の充実	P 14
	【No.8】共通重点目標 服務管理の徹底	P 16
4	ニセコ町全体としての評価のまとめ	
	【No.1】共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進 (幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)	P 17
	【No.2】共通重点目標 特別支援教育の充実	P 18
	【No.3】共通重点目標 読書活動の推進	P 19
	【No.4】共通重点目標 防災教育・安全教育の推進、安全管理の徹底	P 20
	【No.5】共通重点目標 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化	P 20
	【No.6】共通重点目標 外部人材の積極的活用	P 21
	【No.7】共通重点目標 学校情報の積極的な発信の充実	P 22
	【No.8】共通重点目標 服務管理の徹底	P 23
5	今後の取組について	P 23
6	ニセコ町学校評価委員会 構成委員	P 24

◎ はじめに

平成24年度に文部科学省の委託研究事業による「実効性の高い学校評価・情報提供の充実・改善に向けた取組に関する事業」を受託し、平成25年3月に「ニセコ町学校評価ガイドライン」を作成しました。

平成25年度からこのガイドラインに基づいたニセコ町学校評価委員会を組織立てし、幼児センターから高校までの学校評価について、ニセコ町としての取組を進め、2年目を迎えました。

ニセコ町学校評価委員会の取組の特徴は、幼児センターからニセコ高校までにおけるニセコ町の子どもたちの成長過程について、設定した共通項目について同じ目線で捉えながら、子どもたちの成長を考えていくことです。

学校教育の業務は多岐に渡っておりますが、その中から共通の重点目標とそれに関わる共通の評価の観点を設定し、幼児センターからニセコ高校まで連携した学校評価を模索しながら進めてきました。

平成26年度の各学校の評価結果をもとに、ニセコ町全体の評価結果としてまとめました。

1 平成26年度の委員会活動の状況

① 第1回ニセコ町学校評価委員会

- 日程 平成26年5月2日（金）
- 場所 ニセコ町役場第二庁舎
- 内容
 - ・ 委員長及び副委員長の選出
 - ・ 各学校・幼児センターにおける本年度の学校評価について
 - ・ 共通重点目標の設定について
 - ・ 本年度の開催スケジュール

② 第2回ニセコ町学校評価委員会

- 日程 平成26年6月26日（木）
- 場所 ニセコ町役場第二庁舎
- 内容
 - ・ 共通重点目標に係る各学校・幼児センターの指標について
 - ・ 共通の評価の観点の作成について

③ ニセコ町学校評価委員会第1回作業部会

- 日程 平成26年7月16日（水）
- 場所 ニセコ町役場
- 内容
 - ・ 共通重点目標に係る評価の観点について。
 - ・ 評価の観点に基づく共通のアンケート項目について

- ④ ニセコ町学校評価委員会第2回作業部会
 - 日程 平成26年8月12日（火）
 - 場所 ニセコ町役場
 - 内容 ・共通重点目標に係る評価の観点及び共通アンケート項目について

- ⑤ 第3回ニセコ町学校評価委員会
 - 日程 平成26年9月11日（木）
 - 場所 ニセコ町役場
 - 内容 ・共通重点目標に係る共通の評価の観点とアンケート項目について
 - ・共通重点目標に係る評定結果の付け方について
 - ・ニセコ町学校評価委員会の報告書様式について

- ⑥ 第4回ニセコ町学校評価委員会
 - 日程 平成26年12月9日（火）
 - 場所 ニセコ町役場
 - 内容 ・各学校・幼児センターの学校評価の取組状況について（情報交流）

- ⑦ 第5回ニセコ町学校評価委員会
 - 日程 平成26年3月20日（金）
 - 場所 ニセコ町役場
 - 内容 ・共通重点目標に係る各学校・幼児センターの評価結果及びニセコ町としての評価結果のまとめについて

2 各学校・幼児センター共通の重点目標、評価の観点

ニセコ町学校評価委員会及び同委員会作業部会において、ニセコ町の幼児センターからニセコ高校まで全部の学校が同じ視点で評価を行うことから、ニセコ町学校評価ガイドラインから平成26年度の共通の重点目標、共通の評価の観点、共通のアンケート項目を設定しました。

なお、共通重点目標のNo.1では、「分かる授業を目指した授業改善の推進」と合わせて、『幼児センター：「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成』と別に設定しており、幼児センターでは授業ではなく、楽しく遊ぶということに取り組んでいることから、学校とは別の目標を設定しました。

また、本年度は、新たに「No.5 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化」を加え、各学校のいじめ・不登校に対する取組について評価の項目を設定しました。

ニセコ町学校評価委員会 共通の評価の観点及びアンケート項目

項目	共通重点目標	共通の評価の観点	アンケート項目		
			教職員向け	児童生徒向け	保護者向け
分かる授業、楽しい学校・幼児センター	No.1 「分かる授業」を目指した授業改善の推進(幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)	①授業改善のための校内研修の充実 ②効果的な指導方法や指導形態の工夫 ③教育課程改善に向けての取組	①校内研修の充実やICT機器の活用により、分かる授業づくりが進められている。 ②英語学習において、ALTとともに効果的な授業を行っている。 ③全教育活動を通じて、豊かな心を育む教育が行われている。	①学校での学習は、よくわかる。 ②ALTの先生との授業は、わかりやすく、楽しい。	①学校は、分かりやすい授業をめざして取り組んでいる。 ②学校は、教育全体を通して豊かな心を育む教育活動を行っている。
	No.2 特別支援教育の充実	①配慮を要する幼児、児童生徒に対する支援のための研修の充実 ②個別の教育支援、指導計画の作成・実施 ③特別支援学級への校内支援体制の充実 ④特別支援教育への保護者理解	①特別支援教育についての研修に積極的に取組み、授業や教育課程の改善が図られている。 ②個別の指導計画、教育支援計画が整備され、個に応じた指導が行われている。		学校は、特別支援教育について、十分な支援を行っている。
	No.3 読書活動の推進	①朝読書(一斉読書)の取組状況 ②図書館利用、読書活動の状況 ③「あそぶつく」との連携	学校活動の中で図書館やあそぶつくを利用しながら、子どもたちに読書活動を進め、子どもたちに読書習慣を身につけさせている。	①本を読むのは、好きだ。 ②学校図書館やあそぶつくを利用している。	①子どもは、家庭でよく本を読んでいる。 ②子どもは、あそぶつくや学校図書館をよく利用している。
	No.4 防災教育・安全教育の推進、安全管理の徹底	①安全管理や事故防止を意識した取組の推進 ②危機管理マニュアルの等の作成状況と改善充実	①避難訓練や防犯教室、交通安全教室等、子どもの安全を守る取組を行っている。 ②危機管理マニュアルが整備され、活用できるようになっている。	①避難訓練や防犯教室、交通安全教室の意義を理解して真剣に取り組んでいる。 ②私の学校は、安全で安心できる場所となっている。	学校は、避難訓練や防犯教室、交通安全教室等、子どもの安全を守る取組を行っている。
	No.5 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化	①児童生徒アンケートや職員交流による実態把握と情報共有 ②いじめを生まない児童生徒の交流活動の推進	①子ども達の悩みや心配等状況を把握する手立てが講じられ、情報を共有できている。 ②校内全体で子どもの良さを認める学級づくりが進んでいる。	先生は、自分の様々な悩みや相談事を聞いてくれる。	①学校は、子ども達ひとりひとりを大切に、相談に応じてくれる体制が出来ている。
ン学 タ校 庭 ・ の幼 地 連 児 域 携 せ、	No.6 外部人材の積極的活用	地域の方のゲストティーチャーなど積極的な外部人材の活用	地域、保護者など外部人材を取り入れた活動がなされている。	講師の先生(学校外から来てくれた先生)との授業など、積極的に参加している。	子どもは、学校の先生以外のさまざまな人との交流を通して、地域の良さを実感している。
タ校 情 報 ・ 報 幼 児 信 息 す る 学	NO.7 学校情報の積極的な発信の充実	①学校だより等の内容の工夫や充実 ②ホームページ、ブログによる情報発信	学校だより等、各種たよりやブログなどインターネットを通して、保護者に関心のある内容を工夫して、積極的に情報発信ができています。		保護者は、学校のたよりやブログなどで、学校の情報を見ている。
タ学 校 運 ・ 営 幼 児 セ ン	NO.8 服務管理の徹底	①教職員の服務規律の遵守 ②コンプライアンスに関する研修の実施	①各種報告や届けを提出し、文書・個人情報の管理を適切に行っている。 ②体罰・金銭事故・交通安全等について、実効性のある研修が行われている。		

3 各学校・幼児センターにおける評価結果

平成26年度における共通の重点目標、評価の観点、アンケート項目により、各学校・幼児センターで学校評価の集計を行い、各学校・幼児センターごとの共通項目の評価結果を作成しました。

各学校・幼児センターの取組に対する評定結果として「A」「B」「C」「D」の4段階評価をつけています。

【No.1】 ・共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進
(幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)

・共通の評価の観点

- ① 授業改善のための校内研修の充実
(幼児センター:幼児が「楽しく遊ぶ」ことができる環境整備に努める。)
- ② 効果的な指導方法や指導形態の工夫
(保育士が幼児と保育者との望ましい人間関係に努める。)
- ③ 教育課程改善に向けての取組

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題に則り、物的環境整備・人的環境整備に取り組んだ。 ・幼児と保護者に信頼される保育士を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・物的環境整備については、今後園児の増加を見越し増築を進める。 ・今後も幼児と保護者に信頼される保育士を目指し研修に取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士と幼児が望ましい人間関係、信頼関係が出来るよう努めてほしい。 ・今後も研修を深めてほしい。
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修に積極的に取り組み、学習指導の改善、充実が図られている。(研究授業7回、指導主事訪問5回) ・児童、保護者ともにわかりやすい授業と評価されている。 ・子どもたちが意欲的に取り組めるよう、パソコン等を積極的に活用し、保護者からは高い評価を得ている。 ・英語学習は、児童の評価は高いが、教職員の内部評価は低くなっている。 ・中学校英語教諭による乗り入れ授業を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も校内研修に積極的に取り組み、授業の改善・充実を図る。 ・パソコンやテレビ、掲示の仕方などについて学級間で交流を行っていく。使用していない機器の積極的な活用に関心掛ける。 ・英語学習については、ALTとの打ち合わせの時間を確保して、授業についての話し合いを持つ。正式な教科化に向けて、教材などの準備を行っていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を言うことを苦手としている。クラス全体がプラス評価をする。プラスの雰囲気に行くような働きかけも必要である。 ・小学校では、英語は親しむ段階なので、児童が喜んで参加できているのを評価したい。 ・ALTはコミュニケーション能力を大切にしている。捉え方で評価が違ってくると思う。 ・研修だよりの発行は、とても良い。ぜひ続けてほしい。 ・全道的な研究会は、全員で勉強することが大切である。ぜひ頑張ってもらいたい。 ・指導主事訪問は、上手に利用していくことが大切である。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の定型化を図る中で子どもたちが学習への見通しと自信をもって積極的に課題解決に取り組む姿が見られている。 ・子どもたちに学習規律やノートづくりがよく身につけてきている。 ・個々の苦手を把握し、繰り返し学ぶ機会を保障することができた。 ・宿題から自主学習へ転換を図ることと個人カルテの有効活用が今後の課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を学びの主体とし、6年間を貫く意欲と学び方を育てることを継続する。 ・より確実な積み上げのために学習規律やノート指導の基底となるものを策定し、組織的に取り組む。 ・知識・技能と考える力をバランスよく同時に定着させる授業づくりに取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強が楽しく、よくわかると感じている子が大多数を占めていることに取組の成果が表れている。 ・今後も、主体的に学ぶ子を育ててほしい。
二セコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・TT（少人数指導）等指導方法の工夫改善、「テスト前昼休みの学習会や家庭学習計画の作成」「長期休業中の教科相談」「英検・漢検」「チャレンジテスト」などによる学習習慣の定着と基礎学力向上。 ・町内関係者も参観しての授業研究の実施。 ・校内研修は計画的な取組が不十分。 ・生徒の自主的学習習慣の確立が課題。 ・ALTについては職員、生徒共に9割近い肯定的評価であり、英検合格者も全校生徒の1割に達し効果が上がっていると言える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組の継続。 ・併せて、自ら課題を持って進める授業（アクティブラーニング）の展開のため、規律を維持しながら生徒の動きを作る指導を進める。 ・授業の進め方について、保護者への情報提供を進めていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の改善や学力向上に向けた様々な取組について、職員が意識して実践していること、評価していることが十分に保護者や地域に伝わっていないところが残念に思います。
二セコ高校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価を実施し、授業改善を図っている。 ・公開授業の年2回の実施 ・平成27年度入学者の教育課程を見直し、多様な進路実現に対応できるよう改善を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導力向上に向けた校内研修を実施し、「分かる授業」を実践する。 ・授業改善と学力向上については、生徒の授業アンケートにより検証し、確実に進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、学校の根幹であることから生徒の実態に合った授業をお願いしたい。

【No. 2】 ・ 共通重点目標 特別支援教育の充実

・ 共通の評価の観点

- ① 配慮を要する幼児、児童生徒に対する支援のための研修の充実
- ② 個別の教育支援、指導計画の作成・実施
- ③ 特別支援学級への校内支援体制の充実
- ④ 特別支援教育への保護者理解

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援委員会を定期的に開催し、支援のあり方について積極的に交流した。 ・ 小学校の理解もあり、積極的に進めることが出来た。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も、積極的に話し合いや交流を進めていきたい。 ・ 小学校の特別支援学級の先生方の力も借りながら連携を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士一人一人が特別支援員としての研修を深めてほしい。 ・ 今後も自信をもって取り組んでほしい。
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ しりべし学園分校のパートナーティーチャー訪問3回、月2回のスクールカウンセラー訪問を実施し、特別支援学級児童や通常学級で特別に支援が必要な児童について検討し、助言を受けた。 ・ 特別支援学級担当教諭は、北海道立特別支援教育センターや札幌養護学校等へ積極的に研修会に参加した。 ・ 校内特別支援委員会を本年度15回開催し、特別に支援が必要な児童に対して情報を共有するとともに、支援体制や支援方法を確認した。 ・ 町の教育支援委員会と連携して、ニセコ町特別支援リーフレットを作成し保護者に配布した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ パートナーティーチャー、心理士、スクールカウンセラー、保健師等と連携して、特別支援教育の更なる充実に努める。 ・ 特別支援学級担当教諭が、研修会に参加しやすいような校内体制づくりに努める。 ・ 次年度も校内特別支援委員会を必要に応じて開催し、特別に支援が必要な児童についての支援を行っていく。 ・ 特別支援教育のリーフレットの配布等、子ども一人一人の特性やニーズに応じた教育活動の啓発に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級の児童は、幼児センターにいた時に比べて、大きく成長している。先生方の頑張りが大きいと思う。 ・ 週1回の担任部会は、とても良いと思う。 ・ 幼小の連携では、特別に支援を必要とする児童について職員間の交流をしてほしい。また、幼児センター参観は継続してほしい。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修を通して児童の実態を見直し、必要な支援について考えることができた。 ・ つまずきの原因を突き止め、事前に手立てを考え、児童が対処の仕方を身につけ、自信を増すことに繋がる研修を続けたい。 ・ 個別の支援計画や指導計画の策定を進めることができた。 ・ 個人カルテのさらなる活用を図ることが課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の児童について、ものの見方や考え方を的確に理解し、手立てをもって指導するための研修を継続する。 ・ 個人カルテをもとに支援の基本的部分についての共通理解を深める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級の児童がたくましく、賢く成長を続けている姿を嬉しく思う。 ・ 小規模校の強みを生かすうえでも、個人カルテの取組は重要であり、実効性のある取組となることを期待する。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育について職員の理解が進んだことにより、求めるレベルが高くなり、具体的支援に対する評価は低くなっている。 ・個々の生徒の課題に対する確かな把握が、大きく進んだ。 ・特別支援講師の配置がない中での支援体制の整備と普通学級在籍生徒で支援が必要な生徒の個別の指導計画の作成が課題である。 ・保護者への情報提供については、パンフレットの配布により一定の評価を得た。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターを中心とした支援態勢を確立し、合理的配慮ができるよう計画的な指導を進める。 ・合わせて、保護者への情報提供を丁寧に行い、理解を深めてもらう。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級に所属している生徒に限らず、何らかの支援を必要としている生徒に対し、町の特別支援講師の配置もあり、その継続とその活用の更なる充実が必要と思います。
ニセコ高校	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会がスクールカウンセラーと連携を図り、効果的な面談を実施し成果を上げている。 ・職員会議等で定期的に情報交換し指導に役立てている。 ・保護者アンケートの結果から、80%程度の保護者の理解を得ている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後ともスクールカウンセラーと連携し、配慮を要する生徒への支援を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの対応により、生徒が学校生活をしていくことができたことは成果が出ている。継続してほしい。

【No.3】 ・ 共通重点目標 読書活動の推進

・ 共通の評価の観点

- ① 朝読書（一斉読書）の取組状況
- ② 図書館利用、読書活動の状況
- ③ 「あそぶっく」との連携

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の日課に絵本の読み聞かせを位置づけて取り組んだ。 ・専門家のアドバイスもあり、来年度から積極的に取り入れたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の成果が出ているので今後も続けていきたい。 ・来年度からの取り組みになるが、カルタ、しりとり、なぞなぞなどを取り入れる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「あそぶっく」との連携を積極的に進めてほしい。 ・読み聞かせは、素晴らしい成果をあげている。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
二セコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童登校後に、各学級で朝読書を実施した。 ・あそぶっくの朝の読み聞かせを朝は15回、昼は4回実施して頂いた。 ・家庭ではあまり読書をしていないとの評価であるが、子どもたちが本を読む時間は増えているようで、一人あたりの貸出冊数は増えている。 ・今年度から、図書室において、図書の補修や展示の仕方などについて支援して頂いた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせは、子どもたちにとって本に親しむ貴重な機会になっている。次年度もあそぶっくと連携していく。 ・学校図書の貸し出しの機会を増やしたり、読書月間の期間を延長したりするなど、子どもたちの読書活動の充実に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の時間には、担任の先生がいて一緒に聞いてほしい。そうすることで、本を読む楽しさが共有できると思う。 ・先生方が本の紹介をしたり、読書をしている姿を見せたりしてほしい。 ・朝読書の時間に感想発表などを入れるとよい。 ・先生方が本を推薦すると子どもたちも興味を持つと思う。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の時間に真剣に本を読む児童の姿が見られている。 ・あそぶっくの読み聞かせや児童会学習部の「お薦めの本の紹介」など、読書活動の推進が図られている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しむ機会を創り出すとともに、読書の楽しさを実感させることを大切に、自分から主体的に本の世界を楽しめる子を増やしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・読書環境を整えることへ、労を惜しまず創意工夫しながら、じっくりと本と向き合う時間を大切にしてほしい。
二セコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の読書週間を設けた。教師と一緒に読書することが大切なことから、2回目は時間を工夫した。 ・図書委員会の自主的活動を促し、記念日に合わせた特集を組み、図書室整備などを行うことができた。 ・あそぶっくと積極的に連携した。家庭での読書時間の確保が課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の学習において、様々な文章に触れることの大切さを実感させる。 ・あそぶっくとの連携や図書委員の自主的活動をさらに推進し、図書室整備を進め、本を手に取りやすい環境を常に整える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・あそぶっくへ生徒が訪問したときに、子どもの興味関心に触れることができました。とても新鮮に感じました。 ・学校の図書室の環境も良くなりました。 ・小学校でのブックフェアの取組みなど参考になるところがあると思います。
二セコ高校	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の活動を各クラスで取り組んだ。 ・生徒による図書室の利用は少なかった。 ・「あそぶっく」と連携し、「立ち寄り図書館」を実施した結果、生徒の利用者が多く盛況であった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書は、学校全体の取組として継続して実施する。 ・学校図書室の利用を他校の例を参考にしながら利用促進に繋げる。 ・あそぶっくとの連携は、次年度も継続して実施したい。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣の確立をお願いしたい。

【No. 4】 ・ 共通重点目標 防災教育・安全教育の推進、安全管理の徹底

・ 共通の評価の観点

- ① 安全管理や事故防止を意識した取組の推進
- ② 危機管理マニュアルの等の作成状況と改善充実

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の避難訓練の中に、原子力防災訓練を位置づけた。 ・新たな点検用紙を作成し、きめ細かな点検に取り組んだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の避難訓練は、おしゃべりもせず、静かに避難できている。今後も幼児の安心、安全に心がけたい。 ・新たな点検表の本格的な活用は、新年度から進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も防災意識を高めてほしい。
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による校内の安全点検を月1回行い、危険箇所については直ちに修繕を行った。 ・避難訓練、防犯教室、交通安全教室を予定どおり実施した。また、原子力防災訓練は全校で参加した。 ・異物除去講習、消防設備講習などの職員研修を行った。 ・危機管理マニュアルの改訂を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も月1回の安全点検を継続していく。 ・交通安全教室、防犯教室、避難訓練は、関係機関と連携して実施していく。 ・次年度も関係機関と連携して職員研修を行う。 ・原子力防災訓練については、早めに期日と内容を知らせてもらうように働きかけていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の子どもが被害に遭う事案がある。防犯だけで功を興しても良いかもしれない。 ・職員研修は目的意識を持って行うことが大切である。 ・身の危険の防犯と携帯電話等の防犯を併せて考えていくことが大切である。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・目的をしっかりとした訓練を行い、実践的な指導を行うことができた。 ・地域との連携を図る取組を進めることが期待される。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の危機管理意識を高め、適切な対処行動をとれるようにすることを第一の目標に、児童の実践的判断力の伸長を第二の目標とし、取組の推進を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場合を想定し、教職員が的確に対処できるようにすることは、学校の安全を守るうえで極めて重要である。
ニセコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの改善を図った。 ・登下校指導の日常化により、事故防止の意識を高めた。 ・保健室からの情報を分かり易く伝え、生徒の健康に対する関心を高めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動の継続と、危機管理マニュアルの不断の見直しを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の安全教育の実際を見る場面は、あまりないが、町民センターで生徒の下校を見送る先生方の姿など、子どもの安全に配慮した取組がなされていると感じます。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
二セコ高校	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の全校集会や交通安全大会、HR等で継続して指導した。 ・原子力防災に係るマニュアルを整備した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も計画的に実施する。 ・実効性のある危機管理マニュアルとなるよう改善を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「自ら命を守る」ことの大切さを引き続き指導をお願いしたい。 ・災害と原子力防災に対応した訓練を引き続きお願いしたい。

【No.5】 ・共通重点目標 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化

・共通の評価の観点

- ① 児童生徒アンケートや職員交流による実態把握と情報共有
- ② いじめを生まない児童生徒の交流活動の推進

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・一部、職員の叱り方に非難があった。センターへ行きたくないと繋がる心配もあるので、望ましい叱り方について研修を進めたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、幼児への望ましい叱り方について研修を進めたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・難しいと思うが叱り方の研修は、今後も是非やってほしい。
二セコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを2回実施後、教育相談を行い一人一人の心配事などを聞き、助言を行うとともに、いじめ等を確認した場合には早急に対応した。 ・月に1回、児童理解交流会を開催し、生徒指導上の問題や各学級の実態交流を行った。 ・スクールカウンセラー等とも連携して助言を頂いた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も年間2回のいじめアンケート、教育相談、毎月の児童理解交流会を行う。 ・いじめや心配事等を確認した場合は、早急に対応する。 ・スクールカウンセラー等と引き続き連携して助言を得る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめのターゲットになる子ども、打たれ強い子と打たれ弱い子とでは、対応が変わってくる。アンテナを高くしていることが大切である。 ・いじめのアンケートは、形骸化させることなく、有効に活用していくことが大切である。 ・子ども、保護者、教職員の信頼関係の確立が大切である。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート後の面談が細やかに行われており、児童理解や情報の収集に役立っている。 ・子どもの小さなサインについて、よく情報が共有されているが、定例の児童交流会については時間の確保が難しい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの小さなサインを見逃さず、全教職員で情報を共有することは今後も継続する。 ・6年生を中心に学校行事や縦割り班活動を通して、共に創り上げる喜びを感じさせる活動を引き続き大切にす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校の強みを生かし、繋がりと絆を土台として、共に創り上げる喜びを実感させ、仲間意識を醸成させる。 ・近藤小学校の伝統を大切に継承することが、いじめや不登校と無縁の学校づくりに繋がる。
ニセコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートの実施により、情報を共有し生徒に個別の対応を丁寧に行った。 ・特別活動を通して、いじめを生まない集団づくりを計画的に行い、一定の成果を上げた。 ・不登校生徒について、スクールカウンセラーと十分に連携を図り、相談活動を丁寧に進め、改善が図られた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との定期相談を継続、充実させ、報告、連絡、相談を十分に行う中で、いじめや不登校の未然防止を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーの活用の中で、道徳の授業の実践、不登校生徒及び保護者との面接の他、いじめや不登校を未然に防ぐ取組を行っていることを、どんどん発信していくことも必要と思います。
ニセコ高校	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回のいじめアンケートの結果、いじめの実態はないと認識している。 ・教育相談週間を設定し、生徒全員との面談により未然防止、早期発見に努めている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止基本方針に基づき、教職員の情報共有を密にし、組織的に未然防止に取り組んでいく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した調査や指導をお願いしたい。

【No.6】 ・ 共通重点目標 外部人材の積極的活用

・ 共通の評価の観点

① 地域の方のゲストティーチャーなど、積極的な外部人材の活用

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターも含め、小中高校生との交流を積極的に行った。特に、ニセコ小学校との交流は活発だった。 ・インターナショナルスクールとの交流は、計画を立てたが実施直前に行事が入り出来なかった。来年度は、是非実施したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、小中高校生との交流を積極的に進めたい。 ・年度当初から計画を立て、インターナショナルスクールとの話し合いも早めに行ない、交流したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA「おたすけまんの会」は、素晴らしい取り組みだと思う。 ・インターナショナルスクールとの交流を是非やってほしい。
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・あそぶっくの方による読み聞かせや、役場及び農家の方の協力による農業体験を継続して実施した。 ・今年度はファイターズ野球教室や新しく雪崩教室を、6年生を対象に行った。 ・インターナショナルスクールとの年2回の交流学习、国際交流員との交流事業を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせや農業体験は、とても教育効果が高まっていると思うので、次年度も継続して行っていく。 ・今後も地域の施設や人材を生かした特色ある教育を行い、教育効果を高める。 ・インターナショナルスクール等との交流学习などにより、国際感覚を養っていくとともに、地域の特性を生かしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・雪崩教室では、屋根から落ちてくる雪も雪崩の一つだと学べて良かったとの声を聞いている。ただ、小学生用にわかりやすい説明にしてくれるといいと思う。 ・インターナショナルスクールとの交流では、日本語を含めての交流をしていかないと、広がらないと思う。 ・限られた時間の中で、積極的に行っていると思う。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・稲作体験等、地域の協力を得て取り組む活動や学習は、児童にとって有意義なものであった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・エピソード記憶として子どもたちに長く残すべく、体験を通して学び、気付く学習機会を積極的に設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人と関わり、地域や地域の方々との距離が縮まる活動を推進してほしい。
ニセコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習において、13の企業、会社や団体に職場体験を受け入れて頂き、ゲストティーチャーも依頼し、活用した。 ・各教科、道徳等でも、外部人材の活用を図った。昨年よりも活用人数は少なかったため、自己評価が低くなった。計画的に実施することが課題。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい人材を探しながら、年間の中で計画的に実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児センターやあそぶっくに生徒が訪問した際に、子どもの興味関心に触れることができました。とても新鮮に感じました。学校外での人とのつながりはとても大切なことだと思います。今後も積極的な活動の展開を期待したいところです。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ高校	・農業科学コース、観光リゾートコースともに地域の人材や専門家を招聘し、年間で10数回の連携事業を実施した。	A	・今後も継続して地域の文化や農業、観光に関わる方々と連携して授業を効果的に実施したい。	A	・プロジェクト学習や授業において、多くの地域の方々に協力をしていただいていることは素晴らしい。 ・町民や関係団体との連携を図り、生徒の学習効果を上げるために今後も実施してほしい。

- 【No. 7】
- ・ 共通重点目標 学校情報の積極的な発信の充実
 - ・ 共通の評価の観点
 - ① 学校だより等の内容の工夫や充実
 - ② ホームページ、ブログによる情報発信

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	・今年度も3回の学校評議員会で暖かい励ましの言葉をいただいた。 ・園だよりも学級便りも予定通り発行できた。	A	・4人の学校評議員の皆さんの温かい励ましの言葉に力づけられた。 ・今後も、便りは遅れないように発行していきたい。	A	・今後も幼児センターから積極的に情報の発信に努めてほしい。
ニセコ小学校	・学校だよりは定期的に発行した。 ・各学級の通信については、日常の子どもたちの生活や学習の様子をよく伝えていと評価は高い。 ・ブログについては、行事が行われた都度、更新して情報を発信した。 ・ホームページとブログについては、「わからない」と回答した保護者が多かった。	B	・次年度についても、学校だよりを定期的に発行して、学校の経営方針等を伝えていく。 ・学級通信についても、日常の子どもたちの様子を詳しく伝えていくことに努める。 ・ホームページを見る習慣のない方や見られる環境にない方も多いと思われる。紙媒体や懇談等で学校の様子を伝えることにも力を入れていく。	B	・家庭でホームページを見る環境がない人のために、ホームページを印刷したものを掲示すれば見てもらえると思う。 ・ホームページの写真では、表情があると見る時も楽しくなるが個人情報の関係で難しい。 ・学級通信で知らせていくのが良いと思う。 ・学校からの文書については、しっかりと目を通してもらうことが大切である。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・行事のたびにブログを更新するなど、児童や学校の様子を小まめに発信することができた。 ・学校便りや学級通信の内容を工夫し、「見える」「わかる」「伝わる」学校づくりを進めてきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全家庭への学級通信の配布、発信すべき情報に配慮した学校便り、小まめなブログの更新等を継続する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で取り組まれていることが積極的に発信されている。
ニセコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りをはじめとした各種便りや、ホームページについて、内容を工夫しながら情報発信を行った。 ・ホームページの閲覧数は順調に増え、2月末で52,800件を超えた。閲覧数は1日平均で60～80件となっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校として保護者や地域の皆様に知って欲しい事柄として、学校での取組による生徒の意識の変化及び保護者と地域に期待したいことなどについて、具体的に丁寧に発信する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での取組について、職員が意識して実践していること、評価していることが十分に保護者や地域に伝わっていないところがあることを残念に思います。 ・ボランティアや部活動など見えやすい部分の評価は高いです。保護者や地域の方々には、見えにくい部分を評価してもらっては、難しいものがありますが、工夫が必要と思います。
ニセコ高校	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動や生徒の活躍の様子を中心として、定期的に学校だよりを発行するとともに、町広報誌へも情報発信を行った。 ・報道（新聞・テレビ）を通して生徒の活動を積極的に情報発信した。 ・行事ごとに記事と写真をWebページにアップし、適時適切な情報提供に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が知らせたい情報と保護者が知りたい情報をバランスよく適時発信する。 ・保護者に配布物が確実に届くよう、生徒への指導を徹底する必要である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事でよく学校の情報を目にするができた。 ・保護者に対する情報発信の仕方に工夫が必要である。

【No.8】 ・ 共通重点目標 服務管理の徹底

・ 共通の評価の観点

- ① 教職員の服務規律の遵守
- ② コンプライアンスに関する研修の実施

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	・保育士の服装、言動、交通安全等について、気をつけるように啓蒙した。	B	・特に言動について配慮するよう心掛けた。	B	・幼児や保護者から信頼される保育士であってほしい。
ニセコ小学校	・服務に関する指導、情報提供は、朝の打ち合わせと職員会議で行った。 ・コンプライアンスに関する研修は、計画的に行えなかった。	B	・服務に関する情報については、次年度も指導、情報提供を行って法令遵守を図り、信頼される学校づくりに努める。 ・コンプライアンスに関する研修を計画して実施していく。	B	・引き続き教育公務員としての服務を守っていただきたい。日々、服務の遵守についての取り組みをやっていただいているようなので心配ないと思う。
近藤小学校	・学校長から出される「和言愛語」をはじめ、資料をもとにした研修等により職員の意識は確実に高まっている。	A	・必要に応じて資料を用いた研修を実施し、意識向上と相互牽制の強化を図る。	A	・学校の信頼を高めるのは、一人一人の教職員の資質、能力及び意欲である。引き続きチームワーク良く磨き合う体制を大切にしてほしい。
ニセコ中学校	・本校職員のコンプライアンス研修の実施状況や意識について、約8割が肯定的に評価しており、一定の成果があったと捉えられる。	B	・コンプライアンスの意識は100%持てるよう更なる研修の充実と声かけを行い、法令違反を0にする。	B	・教職員の服務に関しては分からないが、校内研究で研修を積んで自己研鑽に努めている姿や、町民センターで生徒の下校を見送る姿など、教職員としての自覚を持ち、子どもの成長を見守る姿勢には、感謝しています。
ニセコ高校	・教職員の職務に取組む姿勢は年間を通じて厳正かつ熱心なものであった。 ・定例職員会議等を活用して適時適切に短時間研修を実施した。	A	・短時間の繰り返し研修により、服務規律の厳正な保持に努める。	A	・今後も継続してほしい。

4 ニセコ町全体としての評価のまとめ

8つの共通重点目標に係る各学校・幼児センターの評価結果を基に、共通の評価の観点により同じ視点で評価を行い、ニセコ町全体としての評価結果をまとめました。以下、共通の評価の観点ごとにまとめています。

【No.1】 共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進 (幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)

「共通の評価の観点」

① 授業改善のための校内研修の充実

各学校等の授業や指導では、それぞれの方法により、子どもたちに分かりやすい授業やり充実した保育を実践するために、校内研修及び公開研究授業を積極的に実施しています。

近藤小学校では複式教育に係る教育実践交流会の実施により、複式教育の研修の充実を図りました。

ニセコ町校長会研修事業を活用して、教員自らが先進地の視察研修で学んだことを、自らの学校等で実践し、全体で共有することができています。

今後も、校内研修の取組を積極的に行ない、授業改善や充実した保育に活かすよう努めていきます。

② 効果的な指導方法や指導形態の工夫

I C T機器の活用、ノートづくりの指導、生徒による授業評価の実施などにより授業の改善を実施しています。

A L Tの効果的な活用として、中学校の英語教諭とA L Tが小学校の外国語活動で授業を行う乗り入れ授業の実施、英検受験生徒への指導サポートなどを行い、中学校教員及び生徒によるA L Tの活用は9割近い肯定的評価がありました。

これらにより、子どもたちの学習意欲が沸くよう工夫した取組が行われました。

また、加配教員の活用による習熟度別少人数指導やチャレンジテスト・全国標準学力検査・全国学力学習状況調査の分析を行い、指導方法の改善を行っています。

今後も子どもたちが意欲的に学習できる指導方法の工夫や、外国語に触れ親しむことができる機会づくりを図っていきます。

③ 教育課程改善に向けての取組

各学校において、研修などの成果の活用を図りながら、教育課程の改善に向けて進めています。

幼児センターから高校までの関係職員が集まって、各学校の取組や子どもたちの状況について話し合いを行っております。

それぞれの学校等で課題と改善策を明確にしていることから、これらの機会を今後も活かしながら、カリキュラムの改善及び学校・教員・教科間の連携等により、教育課程の課題解決と発展・改善に向けて進めていきます。

なお、平成27年度から小中一貫教育・コミュニティスクールの導入について研究

に取り組む予定であり、学習内容の連続性や地域との連携を踏まえた教育課程について協議を行なっています。

【No.2】 共通重点目標 特別支援教育の充実

「共通の評価の観点」

① 配慮を要する幼児、児童生徒に対する支援のための研修の充実

各学校等において、校内研修や校長会研修事業を活用して、特別支援教育に関わる様々な研修会の成果を、特別な支援が必要な子どもたちへの支援の充実に生かすよう努めています。

特別支援学級だけでなく通常学級においても特別な支援を要する子どもたちには、様々なスタイルがあり、適切な指導や対応がとれるよう、教員が幅広く研修に参加できる態勢を整えます。

② 個別の教育支援、指導計画の作成・実施

個別支援計画・指導計画にあたっては、各学校等で保護者の考えや意向を踏まえて作成を行っています。

特別支援学級のほか、通常学級在籍の子どもたちについて計画を作成することは、保護者及び学校間の連携を進めていくことや、小さい子どもの時期から大人になるまでの目標を設定していくうえでも、必要とされているところです。

ニセコ町教育支援委員会において、計画の様式をニセコ町版のもので作成し、これまでの道教委の様式で作成してきたものは、継続で使用することとし、平成26年度から新たに計画を作成することになる子どもたちについて、新様式を使っていくこととしました。

今後、学校間・保護者との連携を深めていくとともに、学級種を問わず特別な支援を要する子どもたちの計画作成を各学校等で実施します。

③ 特別支援学級への校内支援体制の充実

各学校等において、校内の特別支援委員会を開催し、特別支援学級や通常学級の子どもたちについて、教職員全体で支援体制や支援の方法についての確認を行ってきました。

また、スクールカウンセラーや医療等関係機関との連携を図りながら、専門家からのアドバイスをいただくことで、良い効果を上げています。

ニセコ町教育支援委員会では、特別支援学級の活動に対する補助金交付制度を設け、小中学校の交流学习や自立学習、関係機関への教員の旅費支給等を行い、特別支援学級の学習活動に対する支援を行ないました。

また、通常学級及び特別支援学級で特別な支援を必要とする児童生徒に対して、特別支援講師を予算の範囲内で配置し、必要な支援の対応を行ないました。

通常学級の子どもたちへの支援を検討する場合においても、個別支援計画・指導計画を作成することにより、学校内・学校間で情報を適切に共有することができます。

今後も校内特別支援委員会の実施により支援体制を充実されていくとともに、外部機関との連携を深めていきます。

また、幼児センターから高校までの子どもたちの特別な支援について、専門的知識によるサポートや助言指導を行うことができるコーディネーターの配置が望まれていることから、専門的な人材の配置等を検討します。

④ 特別支援教育への保護者理解

ニセコ町教育支援委員会で作成した保護者向けの「ニセコ町教育支援リーフレット」を幼児センターからニセコ高校までの保護者に配布しました。

特別支援教育を進めていくには、保護者の理解がなければならないことから、今後も継続したリーフレットの配布による啓発を行うことで、特別支援教育を保護者に理解を深めていただくとともに、子育ての悩みについて相談できる機関があることを理解していただく必要があります。

教育支援相談の場においても、特別支援教育の説明を行うときに、保護者に理解が得られるよう努めていきます。

【No.3】 共通重点目標 読書活動の推進

「共通の評価の観点」

① 朝読書（一斉読書）の取組状況

各学校等で、絵本の読み聞かせや朝読書を定期的実施しており、各学校等の取組として定着してきました。

朝に読書を行うことで、次の時間の授業に落ち着いて入ることができる効果があることから、今後もこの取組を継続していくことで、読書への興味・感心を高めていきます。

② 図書館利用、読書活動の状況

小中学校の児童生徒による学校図書館の利用は、少しずつ増えてきており、図書の貸し出し冊数も増えてきています。

高校においては、生徒の学校図書館の利用や貸し出しが少ない傾向にありますが、あそぶっくとの連携により、期間限定で高校の玄関前のホールに「立ち読み図書館」を設置しました。

すると、多くの生徒が立ち寄って本を手にとったり、借りていくなど利用があったことから、今後も生徒が図書に親しむきっかけ作りが必要と考えます。

また、あそぶっくから推薦いただいた学校図書室支援員を配置し、各学校の図書業務の支援を行っていただきました。

選書サポート、本の補修、図書館内の整備、子どもたちとのコミュニケーション、図書検索システムの入力などの支援により、子どもたちの本の貸し出しの増加など成果が現れています。

今後も、学校図書室支援員が各学校のサポートに入ってもらえることで、図書活動による学力向上の環境整備や、学校図書担当教員が図書業務で子どもたちに向かい合う時間の確保が期待できます。

学校関係者評価でも、図書活動の関心の高さが伺われるので、学校図書室支援員によるサポートをいただきながら、読書活動の充実と図書室の整備を進めていきます。

③ 「あそぶっく」との連携

あそぶっくと学校等の連携が定着しており、学校図書活動においてあそぶっくの存在は大変大きなものとなっています。

本の読み聞かせ、選書作業、図書館内の整備、ブックフェスティバル、本の補修、子どもたちが読みたい本を探す、児童生徒とのコミュニケーション、新着本のお知らせなど、多数の活動に取り組んでいただいています。

高校においても、あそぶっくの協力により「立ち読み図書館」を設置し、生徒が本に興味を持つきっかけづくりができました。

今後も、子どもたちが本に興味・感心を持ってもらうことができるよう、連携を深めていきます。

【No. 4】 共通重点目標 防災教育・安全教育の推進、安全管理の徹底

「共通の評価の観点」

① 安全管理や事故防止を意識した取組の推進

各学校等において、地震・火災・交通安全・原子力災害が発生した場合の避難・防災訓練を実施しました。

原子力防災訓練では、ニセコ町全体の取組みとして、幼児センター及び全学校が参加しました。

このような訓練の積み重ねにより、危機管理意識の向上を図るとともに、非常時に安全かつ迅速に行動できるよう備えることを目的としています。

また、学校施設の安全点検を実施し、学校施設を安全かつ安心な場所として維持するため、教育委員会と学校等の連携を図ってきました。

高校においては、毎年生徒による交通安全大会として、町内事業所を回って交通安全宣言の取組を実施しており、地域の活動として大変良い評価をいただいています。

今後も、これらの取組を推進していきます。

② 危機管理マニュアルの等の作成状況と改善充実

各学校等で、原子力災害発生時対応マニュアルを新たに作成しました。

その他にも、地震や火災などが発生した際の対応マニュアルが整備されています。

今後、避難・防災訓練の実施や校内会議などでマニュアルの検証・見直しを適宜進めていき、校内の全職員がマニュアルに基づいた迅速な対応がとれるよう、目的意識を持って進めていきます。

【No. 5】 共通重点目標 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化

「共通の評価の観点」

① 児童生徒アンケートや職員交流による実態把握と情報共有

各学校において、児童生徒に対するいじめに関するアンケートを年2回実施し、アンケートの結果によって、児童生徒と教員が個別に教育相談による対応を行ないました。

アンケート結果や対応内容を校内で情報を共有し、学校全体で児童生徒を見守る態勢をとっています。

また、スクールカウンセラーとの連携により、保護者・児童生徒との交流・面談を実施し、適切な対応を行ってきました。

本年度、教育委員会と各学校で「いじめ防止基本方針」が作成され、いじめ防止に対する態勢が整ったところです。

万が一、いじめの事案が発生した場合は、保護者・教育委員会と連携を図り、各学校及び教育委員会で定めた「いじめ防止基本方針」に基づく対応をとっていきます。

また、研修の機会を活用して、教育相談を行うときの教員の対応方法を多くの教員が学習できる機会を作っていきます

② いじめを生まない児童生徒の交流活動の推進

各学校等では、子どもたちによる様々な交流活動が行われており、子どもたち同士がお互いを理解したり、信頼関係を築いたり、コミュニケーション能力を育成する良い機会であると捉えています。

もし、子どもたち同士のトラブルが起きた場合は、学校と保護者間で連絡を取り合いながら、面談を行い対応・指導を行っております。

トラブルの原因も様々ではありますが、トラブルが連続したり、発達障害等の可能性があるようなときは、スクールカウンセラーや教育委員会・関係機関との連携をとった対応をしていくことも必要であります。

今後も、子どもたちが主体的にいじめ防止の取組を行っていくことで、いじめ防止の効果が期待できます。

【No.6】 共通重点目標 外部人材の積極的活用

「共通の評価の観点」

① 地域の方のゲストティーチャーなど、積極的な外部人材の活用

本年度も各学校等において、町内の外部人材による様々な体験学習や講演、学習活動が実施され、主な各学校等の取組は、次のとおりです。

【幼児センター】

観劇、クラシックコンサート、虫歯予防教室、ファイターズ野球教室、寿大学交流会、消防による防火映画上映

【ニセコ小学校】

稲作体験、交通安全教室、租税教室、インターナショナルスクールとの交流学習、消防による避難訓練学習、雪崩学習、郵便局の協力による手紙の書き方体験授業

【近藤小学校】

稲作体験、交通安全教室、敬老ふれあい交流会、ベルマーク財団一輪車講習会、雪崩学習

【ニセコ中学校】

オペラ交流学習、コロッケ作りと6次産業の学習、綺羅街道に関する学習、町内企業への職業体験学習、国際交流員との交流学習、雪崩学習

【ニセコ高等学校】

大学・専門学校・塾の講師による進路・生徒指導学習、アイヌ文化交流会、雪崩学習

以上のとおり、外部人材を活用した様々な取組を実施してきました。

教育委員会の主催で、各学校で雪崩学習を実施しましたが、小学生には難しかった面があり、説明の仕方などを工夫することが反省として上げられます。

また、外部人材リストとして、ニセコ町内の職人のリーフレットを各学校に配布し、外部人材を探す資料として提供しました。

学校関係者評価でも、学校と地域との関わりが大切な活動であり積極的に行ってほしい意見もあり、ニセコ町の子どもたちを育てる学校として、今後も外部人材を活用した取り組みを推進し、プロから本物について学び触れる機会を持つことができるような、キャリア教育の推進を図ります。

【No.7】 共通重点目標 学校情報の積極的な発信の充実

「共通の評価の観点」

① 学校だより等の内容の工夫や充実

各学校等において、学校だよりや学級だよりを定期的に発行してきたことで、保護者や地域住民に学校の様子や教育活動を伝えることができました。

学校の情報を積極的に発信していくことで、学校への理解と協力を得ることが期待されます。

今後も、学校の様子がわかりやすく表現できるような内容にして、わかりやすく充実した情報発信を行っていきます。

また、町の広報誌やラジオニセコをもっと利用していくことで情報発信をさらに充実させていきます。

② ホームページ、ブログによる情報発信

各学校等のホームページやブログを活用して、学校行事などがある都度、いち早く更新を行って、閲覧者に伝えることができました。

しかし、ホームページを閲覧できる環境がない家庭もありますので、今後の情報発信の仕方について、さらにもうひと工夫考えていくことが必要とされます。

また、保護者がホームページで学校の様子を確認することで、親子のコミュニケーションのツールとしても利用されていることから、今後も分かりやすい情報発信を継続していきます。

【No.8】 共通重点目標 服務管理の徹底

「共通の評価の観点」

① 教職員の服務規律の遵守

学校等の職員の服務規律に対する意識は、これまでの研修等の積み重ねにより、高まってきていると感じます。

しかし、一部では学校職員の交通違反・交通事故が発生していますので、今後も服務規律を初め、社会的な規律の遵守についても、働きかけを継続する必要があります。

学校関係者評価でも、学校の信頼を高めるため、また教育公務員としての服務規律の遵守の徹底が求められていることから、研修の継続実施により意識の向上を図っていきます。

② コンプライアンスに関する研修の実施

教育公務員として、コンプライアンス（法令順守）は仕事を進めるうえで当然のことであり、変化する社会情勢の中で、職員一人一人が法令等をしっかりと理解し、教員個人ではなく学校として業務を遂行していかなければなりません。

学校等のコンプライアンス研修の実施で、教員一人一人の意識の向上が見受けられますので、今後も継続した取り組みとして進めていきます。

5 今後の取組について

本年度もニセコ町学校評価委員会では、ニセコ町学校評価ガイドラインに基づき、学校評価の取組を行ってきました。

各委員・各学校職員の協力により、学校の垣根を越えて、子どもたちの成長に関して同じ目線で考え、その成長と課題を全体で確認する場として取り組むことで、学校評価の機能を向上させることができます。

今後は、ニセコ町の子どもたちの成長過程について、共通の重点目標と共通の評価の観点という同じ目線で確認していくことで、子どもたちがどのように成長しているかを捉えることができるように、より充実した評価方法の検討を踏まえるとともに、取組状況や成果報告に数値目標と数値結果を盛り込んだ内容にすることで、さらに深みを増した学校評価の取組を進めていきます。

◎ ニセコ町学校評価委員会 構成委員
 (任期 平成26年4月1日～平成27年3月31日)

区 分	職 名	氏 名
ニセコ小学校	校 長 (ニセコ町学校評価委員会 委員長)	新井 融
ニセコ中学校	校 長 (ニセコ町学校評価委員会 副委員長)	渡邊 均
近藤小学校	校 長	齊藤 信之
ニセコ高等学校	校 長	板東 眞一
幼児センター	園 長	菊地 勇
ニセコ町PTA連合会	副会長	山野 美昭
地域住民等	NPO法人あそぶっくの会事務局長	矢島 誠
事務局	教育長	菊地 博
事務局	学校教育課長	加藤 紀孝
事務局	学校教育係長	三橋 公一
事務局	学校教育係主事	深澤 華代